

合評会報告

暴力再考

奥沢邦成

一月三十一日、東京で本誌の合評会がもたれた。発刊以来、読者の参加を得た合評会はこのはじめてであった。九号を中心にさまざまな意見が出され、また編集部からは、これまでの編集方針および今後の方向（内容的にまた体裁と誌名変更など）が話され、意見の交換が行われた。

ここでは、九号の特集である「暴力と非暴力」を中心に討議された内容をもって、合評会の報告に代えたいと思う。

「暴力」について出された意見は次の三、
点に集約できる。第一は、暴力もしくは暴力主義を否定的に捉えていくと（その主旨は分かるのだが）、一つにはぼくたちが内にもっている変革のエネルギーあるいは爆発力を十分に把握できなくなるのではない

か、またその主張が体制側による反暴力キャンペーンに利用されるという現実がある。

第二点目は、語源的にみて暴力は悪を意味しているのであって、力とか正義とかいった意味を全然含まない。例えば警察は自らの暴力行為を「実力行使」といい、決して暴力とは言わない。このように暴力は、その言葉の意味からして、ぼくたちの思想的立場を表現することは土台できない、とする発言。三点目は、暴力を考える場合に二つの基準に照して考えていくという立場である。その基準とは、公開性ということおよび個人の内発的な自己表現であるか否かという二つである。（この要約は、当日使われた表現どおりではなく、ぼくの理解した範囲での自己流の言いまわしである）また、暴力一般ではなく、現実を生起し

た事例にもとづいて、分析し評価することが必要ではないか、との意見も出されたように記憶する。

× ×
ぼくは九号に「暴力主義の系譜とその批判」を書いた。それは、アナキズム思想の流れと過去の運動とがテロリズムとどのような関わりをもってきたのだろうか、という素朴な疑問に発したテーマであり、暴力主義もしくはテロリズムを拒否する立場で書き、結論づけた。ぼくは、そこで「暴力は人間に内在する固有の自己表現の一つの形式であり、それは最も抑圧的・権力的な手段・行為として結果する」と定義した。そして、「暴力はいかなる思考によっても正当化し得ず、その行為ともたらされた結果のすべてが社会的脈絡から自らを引き離れた行為者のみに属する。行為者はそれらと孤独に対決し、耐える。社会的に庄殺されようと、あるいはまた英雄に仕立てあげられようと同等であり、それはすでに切り離された他者の単なる気まぐれ事に属することであり、行為者が横たえた断絶は決して解消されることはない」と考えた。

これは、アナキズム思想の社会変革へ向

けた実践的な方法を問おうとするより根本的な多くの問題意識からする暴力主義の否定であり、方法論を考察する際に避け得ないであろう暴力もしくは暴力主義に対する批判と検討の帰結であった。

× ×

合評会での幾多の発言は、それぞれに示唆に富むものである。聞きながらそう感じ、今でもそう思う。しかし、改めて自分の論旨を辿ってみると、こうとしか主張できないのではないかと気が持が強い。

方法論という軸を設定する限り、方法論が思考と意志の結実である以上、方法論における暴力は拒否され否定されざるを得ないのである。暴力が理由はともあれ、結果として物理的（もしくは心理的）な強制力である以上、結論を他に求めることはできない。とするなら、変革のエネルギーとして個々人が内にもっている力、あるいは公開性をもち個人の内発的な自己表現としての暴力は、新しい概念のもとに構築しなければならぬのか。

ただ指摘しておきたいのは、よくが暴力の定義で「人間に内在する固有の自己表現の一つ」と考えたのは、新しい概念の構築

という方向とは無縁であった。そこで言わんとしたのは、暴力を、例えば正義のように人間の持つとも崇高な理念と結びつけようとしたのではなく、極論すれば暴力Ⅱ悪でもいいし、暴力Ⅱ悪Ⅱ人間であってまわらないという思元を許容する立場であった。それは、暴力を効利的に捉えることはできないという主張にも連なる。だから、方法としての暴力は拒否しなければならぬ、という結論に到達するのである。また到達せざるを得ないのである。それは思想的立場の選択である。

従って、ここでは暴力それ自体を否定しない。それは、人間、悪そのものの否定に連なるからである。そして、それ故に「暴力はいかなる思考によっても正当化し得ず……」につづく一節が語られなければならない。この二つが対となって、すべてを要約している。

以上の立場は変わらないが、暴力にこめられた問題を、異なる概念によって理解するという方向にもいささか関心が生じてきたことも事実である。可能か否かの問題も含めて、今後の課題としたい。

× ×

最後に、「リベルテール」一月号で、はしもと氏が「系譜とその批判」について触れているので、答えておきたい。

卒直なところを述べるならば、もう少し丁寧に読んで欲しいと思う。例えば、引用部分にしても、文節の違う箇所を「中略」としてつなげられては困るし、引用の章句も論旨を汲んで選んで欲しいと思う。従って、とりたてて反論ということもないが、次の点ははっきりさせる必要がある。

よくはバクーニンを論じるにあたって、ジョルの一節を引用したが、論者はその部分が誤りであること、またこうした引用を援用したばかりへの批判を述べている。前者については、ジョルの論証から判断して不当な結論とは考えないし、具体的な反証が提示されていない以上、批判をそのまま受け入れることはできない。また後者については、ジョルの前掲書はきわめてすぐれた研究書であるとよくは評価しているし、それほど見当はずれな評価ではないだろう。少なくとも、よくはこれ以上のものを知らない。

編集後記

読者の皆さんにもはつきりさせておきたいことなので、後記に代えて一言述べておきたい。というのは、編集スタッフ及び同人内部において「活動—理論研究なり現実運動なり—の中から、その成果として雑誌発行に取り組むべきではないか」という考え方と「現実活動らしい活動がない以上雑誌の継続発行の中から活動を形成すべきだ」とする考え方の二つが対立し、次号以降はそれぞれの立場から雑誌発行を行って行くこととなったということである。思えば私たちの雑誌への関わり方が（読者には多少申し訳ないのだが）これまでアナアナだったということに起因しているわけだが「ないよりはるほうが良い」程度の雑誌から脱皮し、有益にせよ有害にせよ積極的存在を問題にされる雑誌にしたいというのは双方の立場に共通の考え方なので、今後は多少なりとも良くなった雑誌を読者にしてもらえよう努力して行きたい。（K）

V ロッキードスキヤンダルで思うことは、巷の言説が右翼・児玉の左翼に焦点が流さ

れていきつつあることだ。「政府高官」の二人や三人あげられ、来たるべき総選挙で自民党の退潮を喜ぶことがこの結末だとしたら、ブルジョワジーの思うつぽではないか。福田赴夫はこの路線の牽引車である。児玉を中心軸として、その右翼にあるものは天皇制である。天皇制が黒い金と右翼に守られているということ。自民党や財界が黒い金と右翼に支えられているのではないこと。大衆の憤怒を自民党に向ける操作をしているのはマスメディアである。自民党や財界を批判することができて天皇制を批判することのできないマスメディアや既成左翼の外側から天皇制を撃つ闘いを組織していかない限り、与えられた餌をなめて甘い甘いと感じるだけだ。吾輩は一番甘い餌をなめたい。自分で奪う餌、自分で作る餌を。目下研究中です。君の餌は？（G）

V 一〇号は大難産だった。一番早い原稿を手にしてから、なんと五ヶ月近くもかかってしまった。この間、編集方針の討議や次号以降の編集体制などの問題で編集作業の他に仕事が増えてしまった。十一号は新しい編集部によって、判型もA5になり近々お手元にとどくことになるでしょう。（M）

定期購読のお願い

本誌の長期的かつ安定した発行体制のため、本誌の定期購読を訴えます。

なお、定期購読、バックナンバーの申込みに、なるべく郵便振替を利用してください。

購読料 年間（四号分・送料含）

一五〇〇円

振替

東京二一四一六一一

アナキズム編集委員会

季刊

『アナキズム』 一〇号

発行日

一九七六年五月二五日

編集兼発行所

東京都千代田区神田神保町2の32

大同会館内 現代思想社気付

アナキズム編集委員会

Anarkismo

REDAKTKOMISIONO DE "ANARKISMO"

ĉe GENDAISHISO-SHA en DAIDO-Kaikan,
Kandazinbo-cho 2-32, Chiyoda-ku,
TOKYO, Japanio.

n-ro 10

Junio 1976

...ENHAVO...

Pro oportuno forĵeti uzitaĵojn oni ankaŭ forĵetas estonton
...CUĈIDA(Grupo pri Forĵetado) 2.

Vidpunkto de Rabado ...DAIMON-Iĉiĵu 7.

(Specialaĵo)—Cele al Nova Laborista Movado 12

1. Kontraŭimperiisma laborita movado — por laborista movado,
kiu celas socian revolucion k totalan liberigon —
...NAKAGAŬA-Ju

2. Regiona komuna sindikato kiel kritiko al laŭkompania sin-
dikatismo ...NAKAMURA-Rjuĵi

3. Ti-kion ni heredas de la kontraŭmilita laborista movado
...OKUSAŬA-K.

4. Konsilio kiel nova organizformo — laŭ la ideo de Panakuk
...EGUĈI-Kan

<<La Tajdo>> oktobro-decembro 1975. 43.

...notoj de la movado...organoj...gazet-artikoloj...libroj.

<<Opinioj>> 46.

Ĉu la krizo de vivado pro prezaltiĝo signifas la krizon mem
de la mondo? ...KIMURA-Hiroŝi

Tribunala lukto de la biblioteka afero k ni
...Anarkista Grupo de Univ. Waseda

Pozicio de la lukto en Sanrizuka ...JASUDA-Ŝinĵi

Ĉu sindikato povos iĝi ekbombilo de revolucio
...JOKOKURA-Tacuĵi

Libro: "Studo pri Nihilismaj Ideoj" ...MORI-Iĉiran

Filmo: "Hensôkjoku (variacio)" ...JAMAGAMI-Haruhiko

"Cronstadt Izvestias" N-ro 9 ...trad. JOŜIHARA-Bunmê 67.

Orientazia Kontraŭjapana Armita Fronto k la starpunkto de
Neperforta Rekta Agado ...KASATA-Nanao 62.

Voĉoj de la legantoj 59.

<Raporto de la kunkomentado> Repripenso pri Perforto 75.

Postskribo de Redaktado 77.

黒色戦線社

天皇制破壊への渦動

埴谷雄高・大島英三郎ほか 300円

難波大助大逆事件

虎ノ門で皇太子(現天皇)を狙撃 900円

何が私をかうさせたか

金子ふみ子獄中手記/埴谷雄高跋 2000円

反逆者の牢獄手記

大杉栄・朴烈ほか10氏 200円

日本無政府主義運動史 第一編

石川三四郎ほか3氏 350円

自治民範 (全)

権藤成卿著作集/第1巻 3000円

農村自救論・日本農制史談

権藤成卿著作集/第2巻 3000円

労働運動《復刻》(新聞版)

第1〜4次/大杉栄ほか編集発行 5000円

労働運動《復刻》(雑誌版)

第5次/近藤憲二ほか編集発行 [近刊]

大杉栄・伊藤野枝追悼号

『労働運動』大正13年3月号復刻 400円

ディナミック

石川三四郎個人誌復刻 3000円

差別とアナキズム 宮崎 晃著

水平社運動とアナ・ボル抗争史 1600円

黒色戦線《復刻》

アナキズム文芸運動誌 5000円

黒色青年《復刻》

アナキズム最高の理論誌 2500円

群馬県伊勢崎市中町和田 大島英三郎方
電話0270(24)0776 振替/字都宮11015

資料室・共学読書会室 東京都大田区西蒲田7-61-8 エンリコビル4階
電話03(735)1246 毎月第2・4日曜午後1時より共学読書会(公開)

黒の手帖

第20号

目次

季節の雑話——近作詩七篇	秋山清
書評二つの『ブルードン研究』	長谷川進
山と川について——自然論序説2	菅田正昭
「伊勢」信仰と天皇制(上)	大沢正道
新刊旧刊	

定価 300円(送料120円)

黒の手帖社

東京都新宿区北山伏町33 大沢方

振替・東京7-102465

2号分前納 800円

4号分前納 1600円

(いずれも送料含)

黒の手帖

第19号

自由クラブの時代	大沢正道
「大杉栄の旅」小感(4)	秋山清
グスタフ・ランダウアー	C. ウォード
「共同体」批判論・序説	奥沢邦成
太陽について	菅田正昭
ナショナリズムと文化(2)	R. ロッカー 大沢正道訳

黒の手帖

第18号

労働と機械	大沢正道
「大杉栄の旅」小感(3)	秋山清
書評 硬骨のヒューマニズム	清水清
民族と土地(2)	G・ランダウアー 松尾和彦訳
船の思想(3)	菅田正昭
ナショナリズムと文化(1)	R・ロッカー 大沢正道訳

定価 300円(送料120円)

海燕書房

ドストエフスキイと日本文学

新谷敏三郎著 ロシア文学研究の枠をこえ、実践的方法論を駆使して文学の本質へと迫る 1600円

ドストエフスキイの方法

新谷敏三郎著 作品の構造分析を通じてドストエフスキイの秘密を明かす著者の第一論集 1600円

アナキスト詩集

秋山清編 萩原基次郎、岡本潤から向井孝に至る10人のアナキスト詩人の初ての作品集 1800円

佇む 心やさしき反逆

秋山清対話集 独自の批判精神に貫かれた対話から浮び上がるアナキスト詩人の生きざま 960円

蜂起と夢と伝説

田村正敏著 全共闘はどこへ行ったのか。低迷する状況の中で私達はいま何を問うのか? 1200円

『青鞥』の女たち

井手文子著 最初の自立的な女性誌『青鞥』の検証を通じて、女にとっての「近代」を問う 1200円

大杉栄書簡集

飛鳥井雅道解説 革命家大杉栄のナイーブで果敢な生の軌跡と豊かな可能性を示す書簡集 1500円

日本無政府共産党

相沢尚夫他著 レーニン主義とアナキズムの止揚を試みた幻の「党」の理論と実践の記録 1500円

労働者反対派

コロンタイ他／立原信弘解説 党・官僚主導型支配に抗する労働者自主生産管理思想の原像 近刊

近世暴動反逆変乱史

梅原北明編／鹿野政直解説 エロスの先駆者が民衆の反逆を当時の新聞に探った資料集成 1400円

近世社会大驚異全史(復刻版)

梅原北明編 明治・大正期の社会史の史料として不可欠の大著 32,000円(76年4月末まで特価28,000円)

自由聯合・自由聯合新聞(復刻版)

『自由聯合・自由聯合新聞』復刻版刊行会刊
小松隆二解説 限定300部 残部僅少 12,000円

東京都千代田区内神田1-4-6 三洋ビル
電話 03 (293) 9931 振替/東京4-118229

アナキズム 第一〇号 一九七六年五月二五日 (年四回 季刊)

アナキズムとエスペラント

向井 孝著

山鹿泰治 人とその生涯

六〇〇円

草創期のエスペラント運動、そして大杉栄との出会いを通じて日本のアナキズム運動にユニークな足跡を残した山鹿泰治の初の評伝。大杉を助けて・中国のアナキズム運動・日本アナキスト連盟と共に他。

東京都板橋区赤塚2-35-9 白樺ハウス10号

青蛾房

(取扱書)

高群逸枝 評論シリーズ

女性史研究会編集・発行

婦人戦線に立つ

I (品切れ) 二五〇円

婦人戦線に立つ II

三〇〇円

婦人運動の実践題目

三二〇円

婦人運動の単一体系

三二〇円

大正末から昭和初期にかけて、アナ・ボル論争の渦中で執筆された「アナキズム」「女」「恋愛」そして婦人運動論など、高群逸枝に欠くことのできない初期評論集の集大成。

小川正夫評論集

性とアナキズム

六〇〇円

同書刊行会編集・発行

定価 三五〇円